

ラジオ

Skoop On Somebody KO-HEY

いつも放送局へ向かう道すがらは、僕はリラックスしている。局へ到着後スタッフと軽い打ち合わせをしヘッドホンを着け、キューシートを前にマイクに向かう。

少し間は開いたがかれこれ20年以上ラジオで喋らせていただいている。実はここまで一度も「皆様」に向けて話したことはない。それは僕自身が経験したラジオが全てそうだったからだと思う。いつもラジオは僕にだけ語りかけてくれた。落ち込んだ時もイライラしている時も、ずっと心の中に滑り込んでひと時を豊かなものにしてくれた。そんな出来事が今の僕を動かしている。

自分が拙く、上手ではないことは自分が一番知っている。有難いことにそんな僕にも場を与えてくださる。そして今日もまたマイクに向かう。

現代はさまざまな事を自分でチョイスする時代。皆、好みを選んで自分に纏う。良く言えば無駄がない。故に自身の想像を超えるものに遭遇することも難しい。

ラジオは真逆。日々の生活の中に勝手に入り込んでくる。誰しも必要なものだけが必要。な時に必要としているだけではない。気の置けない友人との他愛の無い無駄話にどれほど心救われたか。きっとあなたもそれを知っているはず。

心は整然としていない。常にどこか散らかっている。それが人間という複雑な生き物。そのあなたの隙間にラジオが入り込む。時に楽しく、時に真面目に。発見したり納得したり気が紛れたり。それがラジオの役割だと心から思う。

ある時、友人のプロデューサーが言った。「皆様に愛されるっていうのは、特に誰かに愛されるってことじゃない、たった一人の心を打ち抜ききる事で、それが多くの人に広が

